

眺めのいい電源タップを念頭に
木枠を作り音のバランスを図った

Yoshio Obara's Power strip

Design & Production, Text by

小原由夫

●この電源タップの狙い

私が目論んだのは、高い次元での分解能・情報量の獲得と高S/Nの達成。本品にキャッチコピーをつけるならば、ズバリ「眺めのいい電源タップ」である。そうした視点から使用部材の調達に徹頭徹尾こだわった訳だが、これを突き詰めていくと、往々にして硬さや冷徹さが出てきかねない。そこでどこか力所、手綱を緩める部分を設けようと、木製ケースを自作・採用することにした。

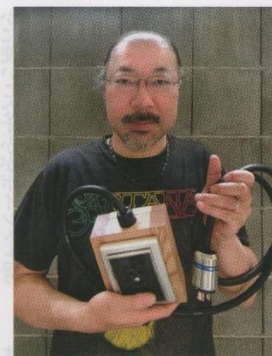
●音のポイントとアクセサリ対策
部材調達にも徹底してこだわり
創意工夫で対策を施していった

眺めのいい電源タップとは、すなわち、音が見える電源タップだ。音像の定位は克明に、音場は立体的なステレオイメージがそれぞれクリアに見通せるもの。こうしたテーマに則って使用部材をチョイスしていった訳だが、まずはアイテム単体で分解能やS/Nに優れたものを選んだ。フルテックのコンセントやプラグ、サエクの電源ケーブルは迷わずビックアップしたが、ケーブルが統一され、しかも樹脂製ということから、そこに創意工夫を施す必要性を感じた。

見えないところでは、ケース内部にNSのアモルメットコアを装着し、内部全面にオヤイデの電磁波吸収シートMWA・030Lを貼り、隙間にはアコースティック・リヴァイブのピュアシルクアップソールPASA・100を充填している。さらにケースへのコンセント固定に、純チタンネジ(2本)を用いた点もS/N向上へのこだわりのひとつ。コンセントカバーにクリプトンCP・HR10を選んだのは、ネオフェードカーボンマトリックスによる電磁波吸収性能に期待してのこと。アコースティック・リヴァイブのコンセントベースCB・1DBは、長年愛用して高S/Nの確保という面から最も信頼できるアイテムである。

その上で、前記した手綱を緩める部分となる木材ケース。これは、個人的にここ数年凝っている木工作業の腕を発揮して、タモの無垢板(底板のみバチ合板)を用いることにした。ここに適度な柔らかさを持ち込むことで、一種の逃げ場を設けた訳である。

本品は使用時にクリプトンのインシュレーターIS・HR10(ここにもネオフェードカーボンマトリックスが使われている)を四隅



作者による自己評価

当初の思惑通り、たいそう見晴らしの良し、まさしく「眺めのいいタップ」が完成したという自信がある。S/N良好で、クリアで高分解能。クッキリとした音像定位の描写も、個人的には大満足である。

小原製作所のタップをこう聴いた

評価/福田雅光

塩ビボックスに木枠で高級感があり、また要所に性能の高いパーツを選び、解像度を重視している。高剛性コンセントベースを採用するなど全てに最良の結果を生む条件を導入。クリプトンのプレートを選ぶなど、パーツの知識は素晴らしい。音は解像度のしっかりしたフラットバランス系を目指した真面目な性能。低域へも良好に伸びているが、ただ陰影コントラストやS/N感は、このパーツとしてはさらに強力であってもいいのでは。高音の冴えた繊細性能はやや甘く感じる。精度の高い性能を追求していることは理解できるが、総合的にはまだ伸びしろがある印象。良しと思えた効果も、ここで最適に動作しているのか。使わない方がベターなことも。

に敷くことを想定したが、これを使うか否か、あるいは他のインシュレーターを使うかで微妙な音質コントロールができるよう考慮した。金属系/樹脂系/ラバー系などいろいろと考えられるが、もちろんタモ無垢材ケースのままのベタ置きでも問題ないよう、工作精度に十分注意して製作している。

なお、将来のメンテナンスや仕様変更を想定し、ケーブル引出し部の一端は接着剤で止めずにおいた。音質面で何らかのエクスキューズが出るとすればここかしら？